

令和6年度 学校評価表

様式1

学校教育目標 確かな力で未来を拓く教育の創造

a ミッション	地域の教育力を生かした 御調プライドを醸成する教育の推進	aビジョン 夢ひろがる地域の学校 ・明日も行きたい学校・会いたい友達や先生・受けたい授業										尾道市立御調西小学校	改善計画
		評価計画			自己評価				学校関係者評価				
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標 達成 率	7月 達成 率	1月末 達成 率	h 達成 度	i 評 価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ ロ ハ	l コメント		
確かな学力の育成	未来につながる基礎的な学力の育成	基礎学力の定着と表現力の向上	○授業改善による学力の定着 ・めあてとまとめが一体化した授業の実施	○国・算の単元未平均点 低学年90点以上 中学年85点以上 高学年80点以上	90点 85点 80点	国 92点 88点 85点 80点 78点	国 105% 101% 110% 103% 100%	国 A A A A A	○国語・算数の単元未テスト平均点は、上半期に引き続き低めでそれぞれ達成度が全て100%以上あり、継続して学力を概ね定着させることはできただと捉えている。日頃の授業やいきいきタイムを使って継続的に復習を行ってきた。12月に実施した標準学力調査の課題を基に、個に応じた対応も意識しながら来年度につながる授業改善を行い、日頃の授業からどう改善していくかが明確にしていく。教員の意識統一を図り、教員の意識統一を図り、児童の学力の定着を目指していく。	10	・色々と工夫しながら対応をされている。教員の意識統一を図り、組織として運営し、個の力を高めてもらいたい。 ・児童実態から授業改善に取り組まれ、教員の意識統一を図りながら進められていることが学力の定着に結びついている。 ・日々の授業の取組が良い結果として表れている。また、楽しく授業が進められているのがよく分かる。 ・引き続き学力向上に努めもらいたい。学習規律の徹底や復習練習などを学年でも統一して取り組むよう今後も続けてもらいたい。タブレットの使用について、使用目的や効果を考えて使うようにしてほしい。 ・授業を工夫され、学力の向上につながる取組をしっかりされている。 ・新聞は何紙あるのか。	日頃の授業を充実させることやいきいきタイムを活用することを通して、児童の学力定着・標準学力調査や全国学力・学習状況調査の分析を基に本校で取り組むこと、小中連携協議会から中学校区で取り組むことを、指導者が日常的に意識できるようにし規則化する。また、学習効果に応じてタブレットの活用を適宜行ったり、N-1-Eに関する取組も充実させたりすることにより児童の学力定着・向上へとつなげていきたいと考える。引き続き、日頃の授業から継続的に取組を丁寧に行い、個の力を積み重ねていくようにする。	
			ONE活動を取り入れた授業づくりによる表現力の向上	○児童アンケートで「図書や新聞を使う授業は楽しい（3～6年になる）」と答える児童の割合80%	80%	97%	90%	112%	A	○図書や新聞に関する児童アンケートを実施し、肯定的評価平均が90%となり、達成度が100%を上回った。2学年以降も新聞を活用した情報収集や、国語科や総合の授業で学習したことと紙やデジタル新聞などでの活動を行った。引き続き、N-1-Eタイムを週一回、継続的に行い、学年について新聞を使った遊びや新聞ワークシートを行った。まとめての時期に入る3学期も新聞を活用したり、新聞作りをしてからして社会事象に目を向けながら、児童が「楽しい・ためになる」と思っている取組を行っていった。			
豊かな心と体の育成	人ととのつながり、関わりを大切にし、健康的に生きていく力の育成	自己有用感の向上	○学級や学校内に役割を持たせ、協働して活動する機会の設定 ・1～3年 係活動等 ・4年 委員会活動等 ・5～6年 委員会クラブ活動、統括的活動、学校行事等	○自分の活動がみんなの生活に役立っていると実感できる児童の肯定的評価90%以上	90%	97%	89%	99%	B	○自分の活動がみんなの生活に役立っていると実感できる児童の肯定的評価は、2学期で落ち込み目標を達成できなかった。多くの児童が自己有用感をもつことができている一方で、残りやでできていることが本人の中でたたり前になり、失敗やできながつたことにはがんに残る児童もある。でてたどりとさでてている行動へのアドバイスを行った上で、しつかり認めることなど、指導者の意識を高め、的確な指導と評価を行っていく。 ・児童のボジティブライト面を意識し直す「リフレーミング」の考え方も指導する。	10	・自己有用感とはどのようなもののか子ども自身が理解していないのではないか。学校内外だけでなく、家庭・地域の場でも自己有用感、自己肯定感について共通認識を持ち、子ども達に対応することが大切である。そのための研修会、講演会等を開催することも必要だと思つ。 ・指導者が一人一人の児童を見つめ、しっかりほめて伸ばしてやってください。 ・実感できる児童の割合が高いのがすばらしい。認める声かけが指導致するところは大切である。運動についても、達成度が素晴らしい。 ・児童の焦点を当て、良いところをどんどん挙げてい取組も必要ではないか。スポーツ界で活躍している人がそのスポーツだけでなく、他の運動を複数やっていたことを知った。いろいろな運動を継続的に行なってほしい。 ・一人一人にしっかりと対応されている。頑張ったことの評価も大切にしながら、それぞれが失敗しても大事な存在と思え場面もあるとよい。 ・個々が満足できるレベルが上がってきている。周りが評価し、課題を与えることが有効と思う。	「ありがとうの木」や下校時の発表など、児童同士の認め合いも非常に大切であるが、認め合いの質を高める（児童の心に響くものにしていく）には、教員の言葉による価値付けが不可欠である。児童だけでは気付かない部分（挑戦する姿勢、過程、継続する姿勢等）を見つけて取り上げて認めていくこと、集団の中に、そのような見方を広げていくことを大切にする。また、失敗に対してはフォローをしたり、ポジティブな見方を教えていたりすることを、全教職員が意識的に取り組んでいく。
			○「ありがとうの木」で相互評価を見える化する	○自分の活動がみんなの生活に役立っていると実感できる児童の割合肯定的評価90%以上	90%	97%	89%	99%	B	○各学年の体育授業およびなわとびの活動において、「目標に向かって取り組み、自分の目標を達成できた、成長を感じられた。」という児童の肯定的評価は、達成度が100%を超え、多くの児童が達成感を得る結果となつた。この成果の要因として、体育授業では児童が自信を意識できるよう指導と評価を行い、運動量の多い活動を積極的に取り入れたこと、また、なわとびにおいては毎日の授業で目標と結果を記録し、成果と課題を明らかにしたことがアプトード結果につながったと考えられる。		これからも、自分の成長に気づき、達成感を持てるように目標と結果を見える化し、振り返りの機会を設けることを継続していく。自分の目標が達成できなかつた子どもには学習の課題や努力の過程を前向きに受け止められるような支援を続けていく。	
地域と共に歩む学校	ふるさと御調に愛着を持ち、地域と主体的にかかわる児童の育成	地域への愛着を持ち、地域と主体的にかかわる児童の育成	基礎的な運動体力・運動技能の定着	○体育の授業を中心に、単元に応じて個人の目標達成と自分の成長を可視化できる機会を設定	90%	96%	92%	102%	A	○各学年の体育授業およびなわとびの活動において、「目標に向かって取り組み、自分の目標を達成できた、成長を感じられた。」という児童の肯定的評価は、達成度が100%を超え、多くの児童が達成感を得る結果となつた。この成果の要因として、体育授業では児童が自信を意識できるよう指導と評価を行い、運動量の多い活動を積極的に取り入れたこと、また、なわとびにおいては毎日の授業で目標と結果を記録し、成果と課題を明らかにしたことがアプトード結果につながったと考えられる。	10	・学校が計画していること以外に飛び込みで行事・活動を持ち込む柔軟に対応してくださり感謝している。児童の「お店がない」という理由に取組の成長を感じておこうようにする。そして、来年度も、地域の人材を活用することにより、本校の教育活動を充実させることで子ども達の成長につなげていくことができるようになる。また、地域の方に学校へ出向いていただき児童に開かれる機会を多く作るようになる。そのことで、地域と共に歩む学校へとしていく。その際、体験を重視するとともに地域の環境（地域との交流、自然・歴史・文化）へも目を向け学習できるように配慮する。そのことを、児童の発見する力と表現する力を高めることにつなげ、確かな力をつけていくようする。	今年度活用した地域の人材や行った校外学習について整理し、来年度以降も中学校区で引き継ぐ一覧を残しておこう。そして、来年度も、地域の方々を年間カリキュラムに位置づけ、計画的に取り組むことは今後も続けてください。子ども達の大きな力にならなっていると思つ。 ・地域と密着した取組が効果的に行われ、児童の力になっていると思う。 ・各教科において、必要な人材（家庭科ミシン指導、社会科選挙管理委員等）をシラバスに落とし込んでほしいのではないか。 ・これからもたくさん地域資源を使ってください。中央小とのコラボもできない。 ・地域との連携がしっかりできていてすばらしい。 ・西小学校の児童は保護者に万能にとっても母校というケンカが多いと思う。他地区との交流も積極的に行ってほしい。 ・「地域人材を活用した学習・行事を実施」を方策としている以上、評価指標の「地域が好き」という問いは間口が広いものになっているので、次年度再考してはどうか。
			○コミュニティ・スクールのよさを生かした教育活動の実施	○地域の人材を活用した学習・行事を計画回数以上実施（学期末）	100%	25/14	29/16	181%	A	○2学期開始時点に計画していた地域の人材を活用した学習・行事を計画し、自分の目標を達成できた、成長を感じられた。その結果、児童アンケートでは、99.9%の児童が「地域が好き」と回答し、自評値を上回った。一方、1名の児童は「店がない」という理由で否定的な回答であった。そういう児童も地域のよさに向けられるよう、来年度も継続して、日常的な地域との交流を伴い、児童を取り巻く自然や歴史・文化との関係性や親和性を高める教育活動を推進する。			
			・年間を通じ、地域の人材を活用した学習・行事を実施	○「地域が好き」と答える児童の割合 95%以上（学期末）	95%	100%	99%	104%	A	○地域の方々の協力を得て、2学期も生活科や総合的な学習の時間、行事を実施させることができた。その結果、児童アンケートでは、99.9%の児童が「地域が好き」と回答し、自評値を上回った。一方、1名の児童は「店がない」という理由で否定的な回答であった。そういう児童も地域のよさに向けられるよう、来年度も継続して、日常的な地域との交流を伴い、児童を取り巻く自然や歴史・文化との関係性や親和性を高める教育活動を推進する。			

【取組評価】 A : 100%（目標達成）

B : 80%（ほぼ達成）< 100

C : 60%（もう少し）< 80

D : (できていない) < 60

【外部評価】イ：自己評価は適正である。

ロ：自己評価は適正でない。

ハ：わからない。

方策進行管理シート

様式2

令和6年度 尾道市立御調西小学校

	目標達成のための方策	活動	4月			5月			6月			7月			活動達成度	方策達成度	取組評価			
			目標数			目標数			目標数			目標数								
			達成数			達成数			達成数			達成数								
確かな学力の育成	○授業改善による学力の定着 ・めあてとまとめが一体化した授業の実施	○国語・算数のテスト平均点 低学年90点以上 中学年85点以上 高学年80点以上 (毎月)	90	85	80	90	85	80	90	85	80	90	85	80	国92点 88点 89点 算96点 87点 85点	国102% 104% 111% 算107% 102% 106%	国A A A 算A A A			
			- 100	90 89	- 84	97 100	87 91	89 88	91 90	86 88	90 85	88 95	89 81	88 82						
豊かな心と体の育成	○NIE活動を取り入れた授業づくりによる表現力の向上	○児童アンケートで「図書や新聞を使う授業は楽しい(3~6年ためになる)」と答える児童の割合80% (学期末 ペーパーアンケート)													80	97	121	A		
															97					
地域と共に歩む学校	○学級や学校内で役割を持たせ、協働して活動する機会の設定 ・1~3年 係活動等 ・4年 委員会活動等 ・5~6年 委員会クラブ活動、縦割り活動、学校行事等 ○「ありがとうの木」で相互評価を見える化する	○自分の活動がみんなの生活に役立っていると実感できる児童の割合 肯定的評価90%以上 (学期末 ペーパーアンケート)													90	97	108	A		
															97					
	○体育の授業を中心に、単元に応じて個人の目標値と自分の成長を可視化できる機会を設定	○「目標に向かって取り組み、自分の目標を達成できた、成長を感じられた。」と答える児童の割合 肯定的評価90%以上 (運動会・水泳)				運動会 90			水泳 90						95.5	106	A			
						94			97											
	○コミュニティ・スクールのよさを生かした教育活動の実施 ・年間を通じ、地域の人材を活用した学習・行事を実施	○地域の人材を活用した学習・行事を計画回数以上実施 (学期末)										14			179	179	A			
												25								
	○「地域が好き」と答える児童の割合 95%以上 (学期末)											95			100	111	A			
												100								

【取組評価】 A:100≤(目標達成) B:80≤(ほぼ達成)<100 C:60≤(もう少し)<80 D:(できていない)<60

方策進行管理シート

様式2

令和6年度 尾道市立御調西小学校

	目標達成のための方策	活動	9月			10月			11月			12月			活動達成度	方策達成度	取組評価			
			目標数			目標数			目標数			目標数								
			達成数			達成数			達成数			達成数								
確かな学力の育成	○授業改善による学力の定着 ・めあてとまとめが一体化した授業の実施	○国語・算数のテスト平均点 低学年90点以上 中学年85点以上 高学年80点以上 (毎月)	90	85	80	90	85	80	90	85	80	90	85	80	国 95点 86点 88点 算 93点 85点 82点	国 106% 101% 110% 算 103% 100% 102%	国 A A A 算 A A A			
			99 97	- 84	87 82	95 88	89 90	92 84	94 95	87 77	90 82	92 92	83 89	85 81						
○NIE活動を取り入れた授業づくりによる表現力の向上	○児童アンケートで「図書や新聞を使う授業は楽しい(3~6年ためになる)」と答える児童の割合80% (学期末 ペーパーアンケート)														80	90	112	A		
															90					
豊かな心と体の育成	○学級や学校内で役割を持たせ、協働して活動する機会の設定 ・1~3年 係活動等 ・4年 委員会活動等 ・5~6年 委員会クラブ活動、縦割り活動、学校行事等	○自分の活動がみんなの生活に役立っていると実感できる児童の割合 肯定的評価90%以上 (学期末 ペーパーアンケート)													90	89	99	B		
															89					
	○「ありがとうの木」で相互評価を見える化する ○体育の授業を中心に、単元に応じて個人の目標値と自分の成長を可視化できる機会を設定	○「目標に向かって取り組み、自分の目標を達成できた、成長を感じられた。」と答える児童の割合 肯定的評価90%以上 (各学年・なわとび)				各学年 90			なわとび 90						92.5	103	A			
						93			92											
地域と共に歩む学校	○コミュニティ・スクールのよさを生かした教育活動の実施 ・年間を通じ、地域の人材を活用した学習・行事を実施	○地域の人材を活用した学習・行事を計画回数以上実施 (学期末)										16			181	181	A			
												29								
	○「地域が好き」と答える児童の割合 95%以上 (学期末)											95			99	104	A			
												99								

【取組評価】 A:100≤(目標達成) B:80≤(ほぼ達成)<100 C:60≤(もう少し)<80 D:(できていない)<60